

Computer Report

Vol.50 No.8 8月号 (通巻671号)

はじめの言葉

8月になるとアメリカ軍による広島、長崎への原子爆弾投下について、そして近年では東京大空襲から始まった大都市に対する爆撃機 B29 による無差別爆撃によって、多くの非戦闘員である一般市民が犠牲になった事実を後世に言い伝えようというマスコミ報道が活発になる。世界初の原爆投下の広島には、戦後 65 年にして初めて国連事務総長が平和を願う式典に参加した。アメリカ高官の姿もあった。

東京大空襲の犠牲者のうち身元不明の遺骨は関東大震災の犠牲者を祀った「震災記念堂」に合わせて納められた。このことから震災記念堂は東京慰霊堂と改称され、慰霊堂では毎年 3 月 10 日に追悼行事が行われてきている。これを受け、東京都は 1990 年(平成 2 年)空襲犠牲者を追悼し平和を願うことを目的に 3 月 10 日を「東京都平和の日」と条例で定めている。

そしてもうひとつ「もう 25 年になる」のが、御巣鷹の尾根の墜落事故犠牲者への追悼行事である。東京発大阪行きのボーイング 747(ジャンボジェット)機が群馬県山中に墜落、乗客乗務員 520 名が犠牲になったのは 1985 年 8 月 12 日 18 時 56 分だった。原爆投下では広島で 14 万人以上、長崎で 7 万 4 千人以上、東京大空襲では 8 万 4 千人以上の犠牲者が出た。これに比べると少ないが平時での犠牲者であるだけに、この数字は重い。

過去の人類の過ち、不幸な出来事は繰り返してはならない。それを後世に正しく語り繋ぎ、教訓としなくてはならない。後世後進に語り継ぐことは、過去を経験し、今を生きる人間に課された努めである。その意味で、戦争体験、事故体験をこれからも語り継ぐ作業を継続すべきである。これは決して、悲しい経験、出来事だけに限らない。これまでに私達が得てきた知識、成功例も同じように語り継いでいかななくてはならない。

人類の犯すちょっとした間違いは、悲惨な結果をもたらす。人類が繁栄し、平和な世界を営み、それを継続維持することは容易いことではない。常に小さな油断と、大きな過ちは隣り合わせであることを忘れるべきではない。大型爆撃機 B(ボーイング)29 は、戦後 B747 という超大規模旅客機として開花し、一度に多くの旅客者が世界中を飛び回ることを助けた。そして世界中の航空事業を飛躍的に発展させる原動力となった。

然るに、我が国を代表する航空事業会社 JAL は今、国の特例的な支援を得なくては存続不可能な状態に陥っている。何かを忘れ、何か語り継がれて来なかったせいではないだろうか。私達が先人や自分の経験から教えられ、得てきた知識や知恵を後世に語り継ぐことを「ナレッジ・リテンション(智の伝承と保存)」というそうだ。今アメリカではこれを、NASA はじめハイテク分野を中心に国家プロジェクトとして推進しているようだ。

日本のハイテク分野、情報処理/情報システムの世界においても、語りつくべき智の遺産は相当あるはずである。にもかかわらず、安直なアウトソーシング化に頼るあまり社内にはシステム部門要員が十分に育っていないと指摘する声もある。正しいノウハウや方法論を含めた「智の伝承と保存」をすることで、後進を育て上げていく精神を私達は改めて求められていると思う。どうせ暑い 8 月である。自らをもっと熱く燃やそう。(藤見)